

◆ ◆見えづらい・聴こえづらい方の避難に関するフォーラム ◆ ◆

日 時:令和6年3月13日(水)9:30~12:00

場 所:吾妻町ふるさと会館

参加者:聴覚・視覚障害者 自治会長 地域住民 社協 市危機管理課
～自分の命をどう守りますか～

《女性防災士3名が講師として活躍》



雲仙市社協より依頼を受け、聴覚障害者に関わっている女性防災士3人で担当しました。

視覚障害者、聴覚障害者、自治会長、地域の方々40名超えの参加があり、要約筆記と手話通訳の情報保障もありました。

講話では、見えない(視覚障害)、聞こえない(聴覚障害)、見えなくて聞こえない(盲ろう)こととコミュニケーション方法を話した後、「自分の命をどう守るか」をテーマで台風・大雨を想定して、情報入手のためのツール、避難経路の事前確認、非常持ち出し袋の準備、ご近所付き合いが大事であることなどをじっくりと話し、「知識だけでは命は守れない!」「行動し訓練するほど命の安全に繋がる」の言葉でまとめました。

次に、避難に関するグループワークを行いました。前の講話で「近所付き合いの大切さ」を話したので地域ごとの班分けが理想でしたが難しいとのことで、障害別班・自治会長班、6グループに分かれました。



まず、雲仙市からハザードマップについて説明があり、その後グループで自己紹介・避難所で必要なものは?非常持ち出し袋には何を準備しておく?など話してもらい、どの班も最初は遠慮気味でしたが、次第に打ち解け時間を延長するほどでした。

「非常食はどこで購入するの?」と質問があり最近では近くのショッピングセンターにも期限の短いものがあるので、1年位のものを購入し、賞味期限が切れる前に食べるローリングストックが良いと紹介しました。

最後に、避難訓練をしました。会場を避難所として想定し、代表者を決め、人数を把握会場に敷いたブルーシートに移動し座ったり・寝てみたりを体験。「冷たくて硬かった」「腰が痛い」「長時間は寝られない」などの感想がありました。「突然のサイレン」避難所が火事!を想定し、一斉にグループで支援しながら駐車場まで避難しました。避難後リーダーは人数確認と報告を体験しました。会場に戻り、水で作った非常食のおにぎりを食べました。以外に好評でした。次回は、同じ地域の方と訓練ができるといいですね。終了後は、社協が準備した起震車を使った地震体験をしました。怖かったとの声が多く聞かれました。

下村静子、西川竹美、川上順子 ～ 報告 ～

~~~~~ つ ぶ や き ~~~~~

桜の花もあちらこちらで蕾もふくらみ、かわいく愛おしく咲きだしました。能登半島の被災地にも桜が咲き人々の心を潤しているのだろうか、花が咲くことを待ち遠しくこころ馳せられたのだろうか。

▼近年、世界では様々な気象災害が発生して、自然生態系、自然災害、産業・経済活動等への影響が出てくると言われている。カーボンニュートラルの取り組みと同様にひとりひとりが災害の備えにも取りんでいくことが大切だと思う。

▼災害ボランティア十訓の中に災害時に於けるボランティアの心得に「活動は人の為にあらず我が為とすべし、実を残して徳を得よ」被災者に対し、何かしてあげようと思わないこと。自分の喜びとしてやらせていただいているという謙虚さとすべての満足感自分自身のものであることを知るべき。むしろ学ぶこと、得るものが大きく、自己の徳を積むつもりで活動する。」とある。

▼能登の災害支援ボランティア活動に活動された仲間のみなさま、大きな輪もでき徳を積まれたことでしょう。お疲れさまでした。

鬼塚富美